

垂直離着陸輸送機C V22オスプレイの横田基地配備と飛行訓練に反対する決議

去る7月29日、米太平洋空軍司令官は記者会見で、米空軍仕様の垂直離着陸輸送機C V22オスプレイの日本での配備先について、米軍横田基地が有力な候補地であると表明したと報道された。既に米軍は、沖縄配備の次は日本全土での訓練空域7カ所であることを明らかにしており、近隣自治体からの反対の声が上がっている。

2012年秋、MV22オスプレイ12機が沖縄県普天間基地に配備され、先月、追加配備用12機が岩国に陸揚げされた。うち2機が既に普天間基地に配備され、残る10機を同基地に移動しようとした矢先の8月5日、宜野座村キャンプ・ハンセンで、HH60ヘリコプターが墜落した。出動した地元の消防車は基地の中には入れず、治外法権の実態があらわになった。周辺自治体は「一歩間違えば住民を巻き込む大惨事になりかねない」と、次々に抗議決議を上げて、全てのヘリの訓練中止を訴えた。沖縄の飲用水のもとである大川ダムの汚染も心配され、調査を要求している。墜落事故後も、3回も山火事を起こし、住民は、自分たちの貴重な財産である山の木々が損なわれ、飲料水が汚染されることに怒りをあらわにしている。

多摩地区には水源林があり、都民が飲用するダムもある。米軍横田基地へのオスプレイ配備、多摩地区などを飛行する訓練などにより、事故が引き起こされたら取り返しのつかない事態になる。オスプレイの危険性は、開発段階から指摘されており、墜落事故を繰り返して多くの乗員が命を落としている。8月26日、ネバダ州インディアン・スプリングスでオスプレイは、着陸失敗事故を起こしている。

オスプレイ配備以前にも、米軍機による事故が頻発している。2004年、沖縄国際大学に大型輸送ヘリコプターCH53Dが墜落、炎上。1959年、宮森小学校（現うるま市）にジェット戦闘機が墜落、小学生16名を含む17名の死者、重軽傷者210名を出した事故などは氷山の一角に過ぎない。1957年12月12日、在日米軍のC46輸送機が八王子市犬目町の山中に墜落、乗員5名全員死亡。1994年10月14日、米軍艦載機A6ジェット機が、高度150メートルを時速800キロで低空飛行中に高知県山間部にある早明浦ダムの湖面に墜落し、パイロット2名が死亡などの重大事故を起こしている。

横田基地内では、2カ所、強襲帯が設置され、パラシュート降下、物資投下などの訓練が行われ、さらにC5Aギャラクシーの低空周回訓練も行われている。横田基地は、輸送中継などではなく、実戦的な戦争訓練基地としての役割を担ってきている。7月30日、横田基地に所属するC130の訓練実施後、部品1個を紛失したという連絡が周辺市町村連絡協議会にあった。住民を直撃したら即死である。

また、米軍は、オスプレイの緊急着陸を学校の校庭に想定していることも発覚している。絶対に容認できない。本市上空の管制権は米軍横田基地にある。市民の命

を危険にさらすわけにはいかない。

よって、本市議会は、垂直離着陸輸送機C V22オスプレイの横田基地配備と飛行訓練に反対する。

上記、決議する。

平成25年9月30日

三 鷹 市 議 会